

新 刊 紹 介

Taxonomy of Economic Seaweeds. With reference to some Pacific species Volume IV. pp. 200. Isabella A. Abbott, Editor, A. Publication of the California Sea Grant College, University of California, 9500 Gilman Drive, La Jolla, CA 92093-0232. (US\$ 10) 1994年2月発行

「有用海藻の分類学, 第4巻, 太平洋の種類について」と題される本書は, 日本, アメリカ合衆国, 中国, 韓国, フィリピンなどの第1級の藻類分類学者が1984年以来, 一堂に会して議論した上でまとめられた, 最新知見満載の論文集の第4冊目である。

内容は大きく4つの節に分けられている。すなわち, ホンダワラ属, マクサ属, オゴノリ属, オキツノリ属である。

本書の特徴は, これまで種の同定がもっとも困難とされていた, これら4つのグループに焦点を当てたことであり, またそれらがいずれも有用海藻である点である。いくつかの新知見を拾ってみよう。

これまで種を見分けることがもっとも困難とされた, 褐藻ホンダワラ亜属に関して, 鯨坂, 野呂, 吉田等は, とくにアジア産の標本を対象に精力的に分類の研究を進めている。本書に載せられた論文を眺めると, 私にとっては暖味としているこの亜属の種類が見えてくるようだ。今後の詳細なアジア産のモノグラフを期待したい。

学名に関して議論の多かったマクサ *Gelidium aman-*

sii は Norris (1990) により *Gelidium elegans* とされたが, 本書で *Santelices* は, 現在のところ *G. amansii* のままがよいとした。しかしながらこの分類群にはいくつかのグループがあると思われ, 今後の研究が必要であるとした。

オゴノリ属では, *Gracilaria dawsonii* Hoyle, *G. manilaensis* Yamamoto et Trono, *G. sullivanii* Yamamoto et Trono, *G. glomerata* Zhang and Xia, *G. yamamotoi* Zhang and Xia 5種類の新種記載がなされている。

オキツノリ属 *Ahnfeltiopsis* は, 従来のオキツノリ属 (*Gymnogongrus*) サイミ属 (*Ahnfeltia*) のいくつかの種が移されて設立された属である (*Silva et DeCew*, 1992)。この新しい属に, オキツノリ (*Gymnogongrus flabelliformis*), ハリガネ (*G. paradoxus*), オオマタオキツノリ (*G. divaricatus*), ホソパノヒラサイミ (*G. catenatus*), サイミ (*Ahnfeltia concinna*), ベサ (*A. gracilis*) など, ほとんどの日本産の種が新組み合わせされている。

本書の内容の一部を拾っただけでも, このような分類学上重要な知見があり, 本書が有用海藻を扱う研究者にとり, 分類上の基礎的資料になると思われる。本書の完成以降も, この研究グループによりさらに分類議論が重ねられており, シリーズ第5巻の準備も進められているようなので期待したい。

(東京水産大学, 田中次郎)

Womersley, H. B. S.: The Marine Benthic Flora of Southern Australia. Rhodophyta Part IIIA Bangiophyceae & Florideophyceae (Acrochaetales to Gigartinales). Australian Biological Resources Study, Canberra. \$50.

第I巻: 海産種子植物, 緑藻と車軸藻 (1984), 第II巻: 褐藻と黄金色藻 (1987) に続くランドマークシリーズの3冊目である。508ページの本書は, 南部オーストラリアに生育する紅藻のうちウシケノリ綱 (チノリモ目, オオイソウ目, ウシケノリ目) と, 真正紅藻綱 (アクロキシウム目から, ウミゾウメン目, テングサ目, ペニマダラ目, スキノリ目までの) 8目27科, 97属234種について, 検索表, 異名, タイプ標本とその所在, 標本とその所在, 分布, 主要な文献を付して述べられている。中でも検索表がしっかりしている。

Dr. K. S. Edyvane, Prof. M. D. Guiry, Dr. J. M. Huisman, Dr. G. T. Karft, Mr. J. A. Lewis と, Dr. W. J. Woelkerling の6人の共著者は, それぞれの専門分野を担当し, 1新属と, 新種, 新組み合わせ35種を含んでいる。

オーストラリア大陸西部の Kalbarri から, 南東部の Victoria の Mallacoota までのオーストラリア大陸の南部沿岸と, タスマニア島に生育する種を含んでいる。これら紅藻のほとんどは, 正確な区別がむずかしいものばかりである。そこで, 各種について, 体構造, 生殖器官と果胞子体, 四分胞子体についての詳細な記述に加え正確な図と, 鮮明な写真を加えていることはとてもありがたい。また, 分類上の問題点をコメントしてくれていることはもっとありがたい。また, 4頁14枚のカラー写真で生育地の状況と代表的な種類を紹介している。日本とオーストラリアの海藻には共通種

が多いと言われる。本書から、わが国との共通属と共通種を探したところ、共通属47、共通種30があった。写真や図から、わが国に生育する種類とよく似たものがあることから今後の比較研究が楽しみである。

オーストラリア \$50 で、ABRS (Flora), GPO Box 636 Canberra ACT 2601 Australia に注文する。The Botanical Bookshop, Australian National Botanic Gardens, Clunies Ress St, Canberra. (Postal Address: PO Box 351, Jamison Center ACT 2614), あるいは

North Lodge Shop, The Botanic Gardens of Adelaide and State Herbarium, North Terrace, Adelaide SA 5000. でも取り扱っている。

続刊の IIIB はオゴノリ目、カギノリ目、サンゴモ目、マサゴシバリ目、と、イギス科 (イギス目) について、IIIC はイギス目の残りの3科と、オーストラリア大陸南部沿岸各地と、他の国との関係について海藻地理が論じられて完結する予定とあり、多いに期待される。
(東邦大・理・生 吉崎 誠)

ニ ュ ー ス

藻類学 春のワークショップのお知らせ

藻類を対象として研究を行っている大学院学生を対象に、藻類学の研究技術のレベルアップをめざして藻類学春の学校 (ワークショップ) を開きます。臨海実験所での合宿期間中に講師による講義・実習を行うほか、参加者各自の研究内容の紹介と討論を行い、交流をはかりたいと思います。多数の志ある大学院学生の参加をお待ちしています。ただし教官のオブザーバー・飛び入り講師としての参加も歓迎します。

期 日：平成7年3月31日-4月2日 (臨海実験所2泊3日)

場 所：神戸大学理学部附属岩屋臨海実験所 (兵庫県津名郡岩屋町岩屋)
神戸大学理学部生物学科 (最終日) (兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1)

講 師：片岡博尚 (東北大学遺伝生態研)
井上 勲 (筑波大学生物科学)
本村泰三 (北海道大学理学部附属海藻研究施設)
川井浩史 (神戸大学理学部生物)

内 容：光生物学実験の基礎 (講義と実習)
藻類の多様性と系統 (講義)
蛍光染色・測光と蛍光抗体法 (実習)
UVレーザー走査顕微鏡 (実習)
研究紹介 (参加者全員) と討論

定 員：約10名

参加費：臨海実験所宿泊費, 食費実費 (約8,000円)

参加希望者多数の場合には参加人数を調整させていただくことがあります。詳細については申し込みされた方に直接ご連絡します。

参加申し込み・問い合わせは下記までご連絡ください。

657 兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1

神戸大学理学部生物学科 川井浩史

電話：078-803-0552, 0550 FAX：078-803-0488

Email: kawai@gradura.scitec.kobe-u.ac.jp